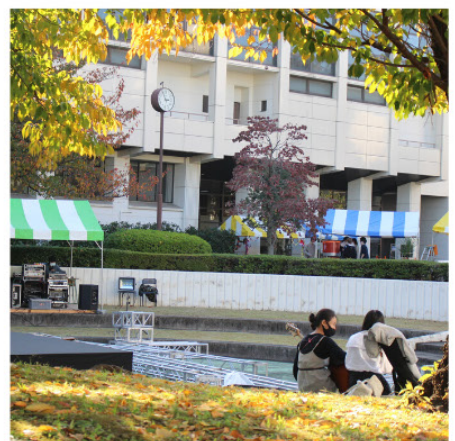
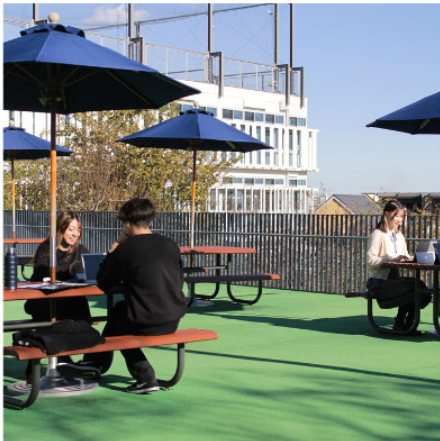


Contents

- 「総合教養教育」体制確立に向けて
横浜商科大学は「総合教養教育」の大学に変わります。
- 各学科・コースの教育改革構想
各学科・コース長からのメッセージ
- 横浜商科大学の教育改革構想
理事長・学長からのメッセージ／新研究棟の建設着工について
- 副学長・商学部長 就任のご挨拶
- 新任教員紹介
- 広報専門部会の紹介／YCC Hot Information
- 令和3年度決算および令和4年度予算



横浜商科大学は「総合教養教育」の大学に変わります。

横浜商科大学(以下、横浜商大)は、「総合教養教育」の大学へと変貌します。

もちろん、横浜商大が商学部のある大学であることに変わりはありません。これまでも横浜商大は「実効型ビジネス教育」を特徴としてきました。それは、社会において自分を活かし、自分の未来を切り開いていくための力を身につける教育であり、そのための商学です。ただ、商大の商学は思いのほか幅広い分野・領域をカバーしています。それは商大の「学び」の構成をみれば明らかです。商大の商学(商業学)は会計・経営・マーケティングにとどまらず、観光、情報、スポーツ・マネジメントなどさまざまな分野から成り立っているのです。

このように横浜商大では多彩・多様な学びが可能です。しかし、その学びをしっかりと自分のものとし、活用できるようにするためには、まずは自分を支えてくれる大きな柱組みをもった基盤・土台が不可欠です。この基盤・土台を築き上げることで横浜商大の学びはより大きな実果をもたらしてくれます。それこそが本学の「総合教養教育」にほかなりません。

それでは、「総合教養教育」は何を目指しているのでしょうか？

その目的は「人間力」を育むことにあります。「人間力」とは人間が生きていくための基礎力であり、自立力(自分の足で立つことのできる力)・自律力(自分をコントロールできる力)・自己展開力(自分の未来を切り開く力)の三つの力から成り立っています。この三つの力を獲得し、維持するだけでなく、さらに発展させることができれば、それは強力な「人間力」を手にしたことを意味します。そこで必要となるのは「教養」の力、すなわち「学び続ける力・考え続ける力・生き抜く力」です。

もう少し具体的に考えてみましょう。「教養」の力とは大学の「学び(＝知)」の原点であり、日本がモデルとしている欧州の大学は「教養」の上に立って歴史を刻んできました。その意味でも、大学にかかわる人間にとって「教養」の力は欠かすことのできないものです。

しかし、「教養」は美術館や博物館、資料館にしまいい込まれ、ときおり展示されるといったものではありません。「教養」は何らかの形で未来・社会貢献しようとする方向に向かって生き続けているものです。その意味では、どんなものであれ、それは「教養」の芽をもっています。

それを「教養」として育て、活かすことが重要なのです。横浜商大では、(1)倫理観・判断能力、(2)正しい知識、(3)情報収集・判断・理解・処理能力、(4)あるいは、リゾームは自分でも気づかなかつた事柄の連鎖を教えてください。少し古い例となりますが、日本には「お伊勢参り」という伝統があります。江戸(東京)から出かける場合は東海道を通って伊勢神宮を目指します。さまざまなガイドブック(東海道を描いた浮世絵もその一つです)を片手に大旅行ですが、その旅からは、旅費その他の経費や地理、天候、各地の名所旧跡・名物に関する情報だけでなく、旅に必要な書類、知っておくべき旅の法律、各地の経済状況、交通網(医療の知識、あるいは言葉(方言)、文化、歴史など、実に多彩な情報を得ることが出来ます。そして、それぞれの情報から、たとえば観光のあり方、ひとや物の動き、移動に関する法規制などについて現代との相違や共通点を探ろうとする興味が生まれ、都市の景観、もの作りの姿勢などについて外国との比較に関心が湧いてきたりと視野が大きく広がっていきます。

結果的に見れば、それは自分自身の世界を広げていくことにつながります。しかも、自分で見切りをつけない限り、そこに限界はありません。それがリゾームなのです。

以上をまとめると、横浜商大は「総合教養教育」を通じて、社会情勢やライフステージの変化に合わせて必要な知識や情報を収集・活用し、多様な表現方法・形式を駆使して自らの意図・目的を実現できる人材、すなわち自らの人生を切り開く「人間力」を備えた人材育成を目指します。また、そのために、「教養基盤科目/キャリア科目/情報・データサイエンス科目/多様性・国際性教育/実効型実践教育/深化・

この「教養力」を体にしみ込ませることで私たちの世界は無数の広がりを持ち始めます。横浜商大では、これを「リゾーム(地下茎)型の学び」と呼んでいます。リゾームは自分の足下、地面の下であらゆる方向へ向かって茎を伸ばしていき、茎が伸びれば伸びるほど、リゾームは全体として堅固なものとなり、自分をしっかりと支えてくれるようになります。

「総合教養教育」の大学に変わります。これは、社会において自分を活かし、自分の未来を切り開いていくための力を身につける教育であり、そのための商学です。ただ、商大の商学は思いのほか幅広い分野・領域をカバーしています。それは商大の「学び」の構成をみれば明らかです。商大の商学(商業学)は会計・経営・マーケティングにとどまらず、観光、情報、スポーツ・マネジメントなどさまざまな分野から成り立っているのです。

総合的な「教養力」ー大きな「人間力を育てる」力です

横浜商科大学で商学を学ぶと、やがて「ビジネスに活かせる実効力」が身につきます。この「実効力」は皆さんの未来を切り開く力となります。大切なのは、この「実効力」を十分に活かすことです。そのためには、「実効力」の土台となる「人間力」を大きく育てる必要があります。では、「人間力」とは何でしょうか？

それは、総合的な「教養」の力です

「人間力」とは・・・

1. 自立力
2. 自律力
3. 自己展開力

総合的な「教養力」とは・・・

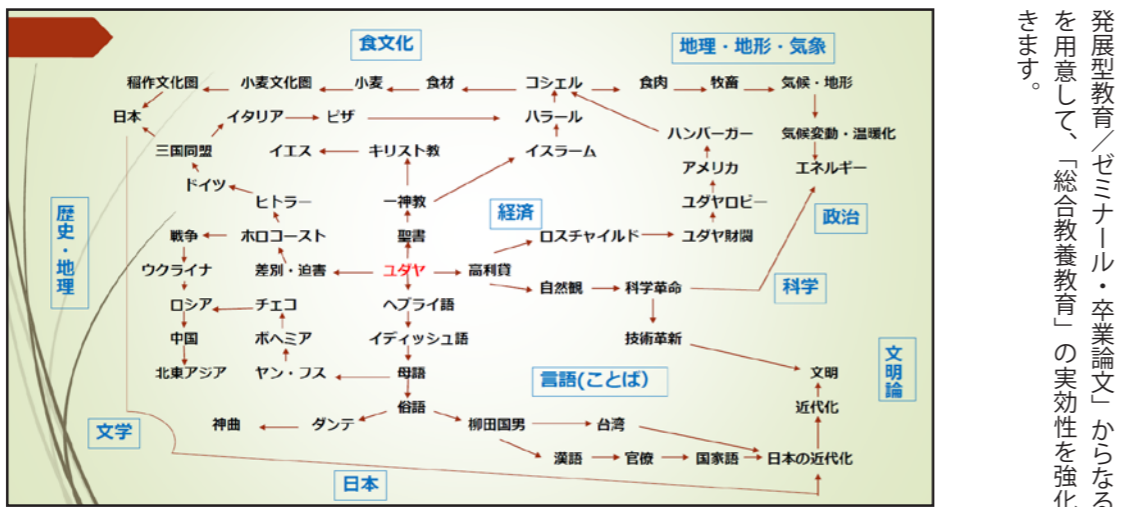
1. 幅広い知識
2. 深い理解
3. 実践力

「実効力」を仕事に活かす、人生に活かすための「教養力」とは・・・

「実効力」を仕事に「実効力」とは、皆さんの学問で培った基礎力から成ります。その「実効力」を十分に活かすためには、「実効力」の土台となる「人間力」を大きく育てる必要があります。そのためには、「実効力」の土台となる「人間力」を大きく育てる必要があります。

令和4年度発行 総合教養教育に関するリーフレットより

あるいは、リゾームは自分でも気づかなかつた事柄の連鎖を教えてください。少し古い例となりますが、日本には「お伊勢参り」という伝統があります。江戸(東京)から出かける場合は東海道を通って伊勢神宮を目指します。さまざまなガイドブック(東海道を描いた浮世絵もその一つです)を片手に大旅行ですが、その旅からは、旅費その他の経費や地理、天候、各地の名所旧跡・名物に関する情報だけでなく、旅に必要な書類、知っておくべき旅の法律、各地の経済状況、交通網(医療の知識、あるいは言葉(方言)、文化、歴史など、実に多彩な情報を得ることが出来ます。そして、それぞれの情報から、たとえば観光のあり方、ひとや物の動き、移動に関する法規制などについて現代との相違や共通点を探ろうとする興味が生まれ、都市の景観、もの作りの姿勢などについて外国との比較に関心が湧いてきたりと視野が大きく広がっていきます。



マインドマップ：関心の在りか/関心の欠如(羽田副学長作成資料より)

発展型教育/ゼミナール・卒業論文」からなる科目群を用意して、「総合教養教育」の実効性を強化していきます。

商学科長

准教授 亀井隆太

商学と総合教養教育

商学科では、会計、経営、マーケティング、経済、法律など様々な分野の学問を「総合教養教育」のコンセプトの下で、主体的な学びにつながるように教育改革に取り組んでいます。また、本学の特徴の一つである「実効型ビジネス教育」をさらに充実したものとすべく、地域や企業との連携プロジェクトの検討を重ねています。実効型ビジネス教育を通じて、学生たちが地域や企業の方々と協働して実践的な経験を積んで、社会に出てから活躍するための基礎を作り上げることができると考えています。さらに、商学科では、ICT技術などを活用し、学生全員がそれぞれの目標を達成できるように、学びの質を高め、多様なスタイルに対応した新しいタイプの教育を構想しています。



経営情報学科長

教授 浮田善文

商学とAI・データサイエンスの融合

近年、社会の様々な場面で、問題解決にAI・データサイエンスが活用されるようになってきています。他の多くの大学が情報・データサイエンス分野の学科新設に動く中、本学では既に該当する経営情報学科を保持し、これまでも理系ではない文系学部で経営情報からできる情報教育を重視してきました。今後、総合教養教育の柱に、論理的な思考力に基づくプログラミングとデータ活用を加えることで、より高度な情報活用力を養う教育を目指しています。また、個々の科目ごとではなく、情報科目全体を俯瞰できることを重視し、科目間のつながりを利用した教育に重点を置くことで、これまで以上に情報に関する深い理解を持ち、社会で活用できる学生を輩出したいと考えています。



観光マネジメント学科長

教授 竹田育広

観光の新たな視点とは「地域を読み撮る」こと。

観光とは旅行とそれにかかわる事象の総称のことで、①観光主体(観光客)、②観光客体(観光対象)、③媒体(観光交通、観光情報など)から成り立っています。この定義に基づき、観光ならではのアカデミックスキルを定義します。とりわけ特徴的なのは、文献から得る『文字情報』に加え、都市や地域のフィールドワークから得る『体験情報』に隠された意味や将来などを推察する力を身に付けることです。さらに、観光が持つ特性を生かした講義形態として、従来の教室での対面式やフィールドワークに加えて、講師自ら現地に向きオンライン講義をリアル配信する講義も取り入れて、今まで以上に質の高い講義を目指します。



スポーツマネジメントコース長

教授 小島敏明

「商学×スポーツ」を徹底的に究めます。

スポーツマネジメントコースは令和二年度に開設。それは、新型コロナウイルスの感染拡大の中でオンラインによる遠隔授業という厳しい船出でした。しかし、スポーツ活動が制限される中で開催された東京五輪、プロスポーツの試合、競技大会など。私たちは改めてスポーツの持つ価値を再確認できました。今年度から、対面授業がスタート、その一方で横浜を本拠地に活動する横浜FCなどのプロスポーツチーム、横浜市、横浜市スポーツ協会などとの連携を活性化しています。スポーツ都市・横浜というフィールドを活かし、「商学」を基本知識としながら、スポーツを実践的に多面的に学ぶことを通じて得る知識・スキル。本学だからこそ実現できる学びの場を形成していきます。



理事長・学長メッセージ

理事長・学長 清水雅彦

高等教育機関である大学は、教育と研究が両輪となって走る車輪に例えることができます。その中には、大規模な重車輪もあれば小規模な軽車輪もあります。比較的に小さな規模である横浜商科大学は、創立以来、経済社会の発展に必要な潤滑油ともいえる商業活動に焦点を絞って、教育と研究をおこなってきました。学問分野の異なる複数の学部が集まった総合大学(University)とは異なり、特定の学問分野である商業活動に特化した単科大学(College)です。とくに本学の特色は、実際に営まれている商業活動を取り上げ、その特質を分析した研究の成果を、教育に活かしている点です。机上の空論に陥ることなく、常に現実の経済社会と実際の商業活動に向き合った教育を目指しているのです。現代の市場経済では、商業活動の多くは企業と個人事業者によって営まれています。企業は原則として利潤(儲け)を追求することが常態です。その一方で、獲得した利潤を社会に還元することがあります。いわゆる直接的な社会貢献です。この社会貢献という視点は、横浜商科大学の学修過程でも大いに重視しているところです。また横浜商科大学では、社会貢献と同時に総合教養教育を重視しています。剥き出しの知識を獲得するだけでなく、知識をより有用な知力に磨き上げるために必要な知性の獲得を重視しています。やがて横浜商科大学は、小粒ながらきらりと光る大学になるでしょう。



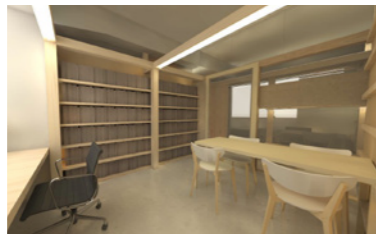
新研究棟の建設着工について

令和五年三月完成を目指して

更なる教育研究の充実を図ることを目的に、教学のシンボルとして、新研究棟の建設を令和四年七月より着手いたしました。

この新研究棟は地上三階建てで、つるみキャンパスに隣接する駐車場跡地に建設。木材を活用した温かみのある空間で、教員や学生の新しい交流の場となることが期待されます。

- 敷地面積 七三・九八㎡
- 鉄筋コンクリート造 地上三階建て
- 建築面積 三八・二〇㎡
- 延べ面積 九九八・九七㎡



副学長・商学部長 挨拶

横浜商科大学副学長の羽田功です。令和4年4月からは商学部長を兼任しております。

まずは本学の大学広報を手にとっていただきましたことに心より御礼申し上げますとともに、現在本学が大きな改革事業に取り組みつつあることをお伝えしたいと思います。

本学は商学部のみ、学生数も各学年300名前後という小規模大学です。これまで「実効型ビジネス教育」を特徴とする商学教育に力を入れてきましたが、この特色をより一層強化し、まさに実効性を高めるために本学は横浜商大固有の「総合教養教育」の構築を目指すこととしました。これを一言でいえば、社会で活躍するためだけでなく、長い人生そのものを土台から支えることのできる「人間力」の養成にほかなりません。

横浜商科大学の変貌にぜひご期待ください。



Profile 教授 羽田 功

【研究分野】 歴史（ユダヤ人問題）、民族学、文学・思想、教養教育

【経歴】1977年3月慶應義塾大学文学部卒業、1979年3月同大学院文学研究科修士課程修了、82年3月同大学院博士課程単位取得満期退学。1981年4月慶應義塾大学経済学部助手、1988年同助教授、1995年4月同教授を経て、2019年4月より横浜商科大学教授。1985年から87年ドイツ・ミュンヘン大学留学。1997年から98年ドイツ・アーヘン工科大学ドイツ文学研究所訪問教授。国立民族学博物館共同研究員。文部科学省委託研究「教養教育研究会」座長。慶應義塾高等学校校長(兼務)。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。

新任教員紹介

令和4年度 新任教員紹介

本学に着任された先生方をご紹介します。

※以下五十音順です。役職等は令和4年度入職時のものを記載しています。



教授 岡田 重美

【研究分野】
日本語教育、現代中国事情



専任講師 鈴木 雅康

【研究分野】
財務会計



特任教授 津山 智行

【研究分野】
金融、金融ビジネス



准教授 林 剛司

【研究分野】
アメリカ文学・文化（ジェンダー・エスニシティ）
英語圏児童文学、英語教育



教授 若林 宏保

【研究分野】
マーケティング、ブランド戦略、地域活性化戦略
プレイスブランディング、アート思考のビジネス活用



准教授 脇 拓也

【研究分野】
経営戦略、組織と制度の経済学
経営倫理学（不祥事研究）・経営哲学

TOPIC 1

令和四年度入学式が挙行されました

令和四年四月四日(月)、神奈川県民ホールにて入学式が執り行われました。二九七名の新入学生および二名の編入学生が入学しました。

TOPIC 2

第七〇回全日本学生剣道選手権大会出場

本学剣道部木村錬太郎選手(商学科二年次生)が、七月三日に行われた第七〇回全日本学生剣道選手権大会に出場しました。



一回戦は関西連盟の代表選手を破り二回戦へ進出しましたが、二回戦で関東連盟の代表(優勝選手)と対戦し、善戦しましたが力及ばず敗退しました。全日本剣道選手権大会出場は、本学剣道部にとって三年ぶり、十四人目の快挙。木村選手は賞賛に値する成績であったことから、スポーツ特待生として認定されました。

TOPIC 3

フォレストチャリティーコンサート

— 東本ゼミによるボランティア活動 —
2022 in 銀座

十月十六日(日)開催の「フォレストチャリティーコンサート2022 in 銀座」に東本ゼミがボランティアとして参加しました。このコンサートは、元JICA職員・大谷和美氏の「Iris Education&Enterntainment」が主催し、国連UNHCR協会が後援する難民支援を目的としたもの。

ゼミ生たちは来場案内や若干の通訳業務などを行ったほか、SDGsをテーマとした手描きのしおり五千枚を作成し、募金の代わりに任意で購入してもらったこととなりました。学生たちが販売した手描きのしおりから得られた寄付金総額は、二五五、五五〇円でした。この寄付金は、コンサート当日、UNHCR事務局長の川合雅幸様へお渡ししました。



TOPIC 4

「兼高かおる世界の旅」

— 貴重な映像を観光文化論で公開 —

中村純子教授が登壇する観光文化論で「兼高かおる世界の旅(ペルーの謎と宝)」の映像が公開されました。本映像は、太字での取り扱いとしては、例目となり当日はペルーを事例に歴史や文化、観光状況などを学びました。講義には観光マネジメント学科長の竹田育広教授もゲストスピーカーとして登壇。竹田教授の調査地である淡路ワールドパークONOKORO「兼高かおる旅の資料館」(現在は閉館)についても話を聞くことができました。

TOPIC 5

横浜学園と「高大連携授業」を実施

七月二十五日(月)・二十七日(水)の二日間、横浜学園高等学校の二年次生を対象に「高大連携授業」を実施しました。一日目は、横浜市温暖化対策統括本部SDGs未来都市推進課の仁和裕美子氏をゲストスピーカーとして招き、横浜市のSDGsに関する取り組みを説明されました。その後、本学商学部観光マネジメント学科の秋山友志准教授から観光やまちづくりに関連性の強いSDGs目標について探求学習がおこなわれました。

二日目は、グループごとに成果を発表。秋山友志准教授より「サステイナブルツーリズム」という演目で講義をおこないました。

TOPIC 6

「ちむどんどん」横浜鶴見プロジェクト

ドラマ「ちむどんどん」の舞台の一つとなった横浜市鶴見区。令和四年度は、本学の羽田功副学長もメンバーとして参加している「ちむどんどん」横浜鶴見プロジェクト実行委員会との連携により、本学学生たちは記者として地域の人々とともに鶴見区を盛り上げています。

沖繩にゆかりのある料理店や伝統芸能「エイサー」のパレード、「ちむどんどん」に出演した俳優や女優の方へのインタビューを実施。記事はSNSを活用して地域の魅力を発信しています。



TOPIC 7

応援ありがとつございしました

— 硬式野球部三年ぶり横浜市長杯出場 —

硬式野球部は神奈川県秋季リーグで準優勝し、横浜市長杯へ出場しました。中央学院大学、千葉県大学野球連盟二位)と戦い、残念ながら五対四の惜敗という結果となりました。

「野球だけではなく、私生活でも礼儀正しく」をモットーに日々練習に励む硬式野球部。令和三年十月より活動拠点であるみどりキャンパスグラウンド周辺のゴミ拾いを週末に一時間ほど行っており、地域との関わりも大切にしている団体です。目指せ神宮大会!これからも応援よろしくお願ひします。

TOPIC 8

全ての学生が学び、活動する環境を。

— 障害学生支援室を設置 —

障害のある学生が他の学生と同じように大学で学び活動することができるよう修学支援を行なうにあたり、令和四年四月より障害学生支援室を開設、十月より障害学生支援室のホームページを設けました。障害学生支援室は、障害のある学生本人からの申し出をもとに、合理的配慮の提供をはじめとする修学支援が円滑に受けられるよう、関連部署へ調整を行います。該当学生が適切な配慮を受けられるよう、障害学生支援室は教員・職員への支援も実施し、教職一体で連携を取りながら学生をサポートします。障害者を取り巻く環境は少しずつ時代と共に変化しています。障害者に関わる理解の促進のための啓蒙活動と関連する情報の提供も継続的に行います。

TOPIC 9

多くの来場者で賑わいました

— 第五十五回飯山祭三年ぶり一般公開 —

十一月三日(祝)から四日(金)に、「第五十五回飯山祭」が開催され、厳重なコロナウイルス感染対策の下、地域の方との交流を楽しむイベントとなりました。

一〜三年次生にとっては初めての対面開催となった飯山祭。企画・運営をする飯山祭実行委員会の学生たちは、一年間かけて横浜商科大学らしい企画を考え、盛り上がるように活動をしてきたとのこと。ゼミナールや部活動ごとに出店していた模擬店や構内店は、学生たちの日頃の活動成果をPRできる場になりました。



広報専門部会の紹介

広報専門部会長 教授 伊藤 穰

本学は規模こそ小さな大学ですが、ダイナミックな変革を遂げています。平成27年度、令和2年度には観光マネジメント学科とスポーツマネジメントコースがそれぞれ誕生しています。また、学生や教職員は多様な活動を行っており、コロナ禍にあっても鶴見区をはじめとした地元の企業・団体との協業は続き、ゼミや課外活動では学生たちが活躍を見せています。こうした本学の教育・研究活動を広く知っていただく為に、広報専門部会が発足いたしました。「いい活動をしているんだから、もっと宣伝しなきゃダメだよ」というお叱りの言葉をいただくこともありましたが、「横浜商科大学のことがもっと知りたくなった」と多くの方々に思っていたいただけるような広報を心がけて参ります。



横浜商科大学 令和3年度決算および令和4年度予算

事業活動収支計算書

(単位:千円)

| | | 令和3年度 決算 | 令和4年度 予算 | |
|---------------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 教育活動収支 | 収入 | 学生生徒等納付金 | 1,486,263 | 1,403,151 |
| | | 手数料 | 21,524 | 38,810 |
| | | 寄付金 | 13,046 | 4,000 |
| | | 経常費等補助金 | 150,132 | 120,150 |
| | | 付随事業収入 | 28,133 | 29,760 |
| | | 雑収入 | 48,285 | 36,313 |
| | | 教育活動収入計 | 1,747,383 | 1,632,184 |
| | 支出 | 人件費 | 799,830 | 828,955 |
| | | 教育研究経費 | 574,439 | 597,898 |
| | | 管理経費 | 199,402 | 198,923 |
| 教育活動支出計 | 1,573,671 | 1,625,776 | | |
| 教育活動収支差額 | 173,712 | 6,408 | | |
| 教育活動外収支 | 収入 | 受取利息・配当金 | 50,016 | 40,000 |
| | | 教育活動外収入計 | 50,016 | 40,000 |
| | 支出 | 借入金等利息 | 3,609 | 3,380 |
| | | 教育活動外支出計 | 3,609 | 3,380 |
| 教育活動外収支差額 | 46,407 | 36,620 | | |
| 経常収支差額 | | 220,119 | 43,028 | |
| 特別収支 | 収入 | 資産売却差額 | 92,699 | 0 |
| | | その他の特別収入 | 2,490 | 0 |
| | | 特別収入計 | 95,189 | 0 |
| | 支出 | 資産処分差額 | 3,643 | 10,000 |
| | | その他の特別支出 | 0 | 0 |
| | | 特別支出計 | 3,643 | 10,000 |
| 特別収支差額 | 91,546 | △ 10,000 | | |
| 〔予備費〕 | | | 5,000 | |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | 311,665 | 28,028 | |
| 基本金組入額合計 | | △ 373,337 | △ 300,452 | |
| 当年度収支差額 | | △ 61,672 | △ 272,424 | |
| 前年度繰越収支差額 | | △ 1,208,741 | △ 1,669,749 | |
| 基本金取崩額 | | 0 | 0 | |
| 翌年度繰越収支差額 | | △ 1,270,413 | △ 1,942,173 | |
| (参考) | | | | |
| 事業活動収入計 | | 1,892,588 | 1,672,184 | |
| 事業活動支出計 | | 1,580,923 | 1,644,156 | |

資金収支計算書

(単位:千円)

| | 令和3年度 決算 | 令和4年度 予算 |
|-------------|-------------|-------------|
| 収入の部 | | |
| 学生生徒等納付金収入 | 1,486,264 | 1,403,151 |
| 手数料収入 | 21,524 | 38,810 |
| 寄付金収入 | 13,046 | 3,500 |
| 補助金収入 | 150,132 | 120,150 |
| 資産売却収入 | 914,498 | 440,000 |
| 付随事業・収益事業収入 | 28,133 | 29,760 |
| 受取利息・配当金収入 | 50,016 | 40,000 |
| 雑収入 | 48,277 | 36,313 |
| 前受金収入 | 450,672 | 420,420 |
| その他の収入 | 485,151 | 549,900 |
| 資金収入調整勘定 | △ 552,936 | △ 433,273 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,128,148 | 1,383,163 |
| 収入の部合計 | 4,222,925 | 4,031,894 |
| 支出の部 | | |
| 人件費支出 | 802,745 | 807,095 |
| 教育研究経費支出 | 464,926 | 489,217 |
| 管理経費支出 | 185,084 | 186,217 |
| 借入金等利息支出 | 3,609 | 3,380 |
| 借入金等返済支出 | 38,220 | 38,220 |
| 施設関係支出 | 216,337 | 412,907 |
| 設備関係支出 | 18,183 | 58,325 |
| 資産運用支出 | 1,260,478 | 502,000 |
| その他の支出 | 340,782 | 321,000 |
| 資金支出調整勘定 | △ 84,559 | △ 148,353 |
| 〔予備費〕 | | 5,000 |
| 翌年度繰越支払資金 | 977,120 | 1,356,886 |
| 支出の部合計 | 4,222,925 | 4,031,894 |

令和4年3月31日現在

| 資産の部 | | 負債及び純資産の部 | |
|--------|------------|-------------|-------------|
| 固定資産 | 10,963,063 | 固定負債 | 996,130 |
| 流動資産 | 1,033,679 | 流動負債 | 610,985 |
| | | 基本金 | 11,660,041 |
| | | 繰越収支差額 | △ 1,270,414 |
| 資産の部合計 | 11,996,742 | 負債及び純資産の部合計 | 11,996,742 |